InterSafe WebFilter Ver9.1

バージョンアップ ユーザーズガイド

Windows Proxy 編

目次

1. はじめに 4

1-1. バージョンアップについて 4
1-2. 各バージョンプログラム入手方法について 4

2. 単体構成+同一筐体でのバージョンアップ手順 5

2-1. バージョンアップ作業項目について 5
移行環境 5
作業項目一覧 5
2-2. サービスの起動/停止について 6
2-3. 既存設定のバックアップ 6
2-4. プライマリサーバの上書きインストール 7
2-5. 注意事項の確認/設定 11
2-6. URL DB ダウンロード 11

3. 複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順 12

3-1. バージョンアップ作業項目について 12
移行環境 12
作業項目一覧 12
3-2. レプリカサーバのサービスの停止/起動について 12
3-3. レプリカサーバの既存設定のバックアップ 13
3-4. レプリカサーバの上書きインストール 13
3-5. URL DB ダウンロード 17

4. OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順 18

4-1. バージョンアップ作業項目について 18
移行環境 18
前提条件 18
作業項目一覧 19
4-2. バージョンアップ手順 20
プライマリサーバの構築 20
レプリカサーバの構築 26

5. 異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順 32

5-1. バージョンアップ作業項目について 32
移行環境 32
前提条件 32
作業項目一覧 33
5-2. バージョンアップ手順 33
既存サーバのバージョンアップ 33
設定ファイルの保存 35
新規サーバの構築 36
設定ファイルの復旧 40

注意事項の確認/設定 41
URL DB ダウンロード 41

6. 障害時のリカバリについて 42

プライマリサーバのリカバリについて 42
レプリカサーバのリカバリについて 42

7. Ver9.1 SP3 での変更内容について 43

7-1. 注意事項 43
7-2. バージョンアップによる機能追加 43
7-3. 設定ファイルの違い 44

8. バージョンアップ時の FAQ 45

9. InterSafe WebFilter サポート窓口について 45

1. はじめに

本マニュアルでは、InterSafe WebFilter(以下、WebFilter と記載)を Ver9.1 SP3 へバージョンアップを行う場合の手順について説明をしています。なお、Ver.8.0～Ver.9.1 SP2 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップも同様の手順で実施可能です。

操作手順の中に、WebFilter のマニュアルを参照する説明がありますので、WebFilter の管理者マニュアルを準備してください。

Ver9.1 SP3 の変更点については、『7.Ver9.1 SP3 での変更内容について』を参照してください。

また、Ver9.1 SP3 ではサーバの呼称を「マスタ/スレーブ」から「プライマリ/レプリカ」に変更しております。

1-1. バージョンアップについて

Ver9.1 SP3 のプログラムでは Ver8.0 以降から設定情報を保持したまま直接バージョンアップを行うことが可能です。

Ver7.0 以前のバージョンからバージョンアップを行う場合は、一旦 Ver8.0 以降にバージョンアップ後、Ver9.1 SP3 へのバージョンアップを行う必要があります。

本マニュアルでは、各章ごとに、プライマリ単体の場合は『2.単体構成+同一筐体でのバージョンアップ手順』、プライマリ/レプリカサーバ構成の場合は『3.複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順』、Linux → Windows など OS の変更を伴う場合は『4.OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順』にて、それぞれの手順を説明します。

- プライマリサーバとレプリカサーバは同一 OS、同一スペック、同一の InterSafe WebFilter バージョン・製品にて運用することを前提としています。
- 製品の移行(ICAP 版 → Proxy 版、Proxy 版 → ICAP 版)についてはサポート対象外となります。

1-2. 各バージョンプログラム入手方法について

各バージョンのプログラムは、弊社 FAQ サイトの No.5671 よりダウンロードできます。

■ユーザ様専用ダウンロードサイト

https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=5671&category=&page=1

- ユーザ様専用ダウンロードサイトご利用には ID とパスワードが必要です。

すでに ID とパスワードをお持ちのお客様は、FAQ サイトにログイン後、FAQNo.5671 を検索しアクセスしてください。

ID とパスワードをお持ちでない場合、ID とパスワードを発行いたしますので、以下よりお申し込みください。

■サポートサイト ID 申請ページ

https://www.alsi.co.jp/contact-us/security/supid/

2.単体構成+同一筐体でのバージョンアップ手順

ここでは、プライマリサーバ（単体構成）を同一筐体上で Ver8.5 SP2 から Ver9.1 SP3 へバージョンアップを行う詳細について説明します。Ver8.0～Ver9.1 SP2 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

Ver7.0 以前のバージョンからバージョンアップを行う場合は、一旦 Ver8.0 以降にバージョンアップ後、Ver9.1 SP3 へのバージョンアップを行ってください。

プライマリ/レプリカ構成の場合は「3.複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順」の手順を参照してください。

2-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 2-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	日本語版 Microsoft Windows Server 2016 Standard 64bit	Proxy Ver8.5 SP2 Build1008 on Windows
移行後	日本語版 Microsoft Windows Server 2016 Standard 64bit	Proxy Ver9.1 SP3 Build1601 on Windows

作業項目一覧

バージョンアップ時の作業項目は以下の通りです。

表 2-2

WebFilter Ver.	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
8.5 SP2	サービス停止（2-2.参照）	5 分	
	Ver8.5 SP2 の conf とログフォルダバックアップ（2-3.参照）	10 分	
	Ver9.1 SP3 へバージョンアップ（2-4. 参照）	5 分	
9.1 SP3	注意事項の確認/設定（2-5.参照）	10 分	
	URL DB ダウンロード（2-6.参照）	5 分	
バージョンアップ終了		計 35 分	

2-2. サービスの起動/停止について

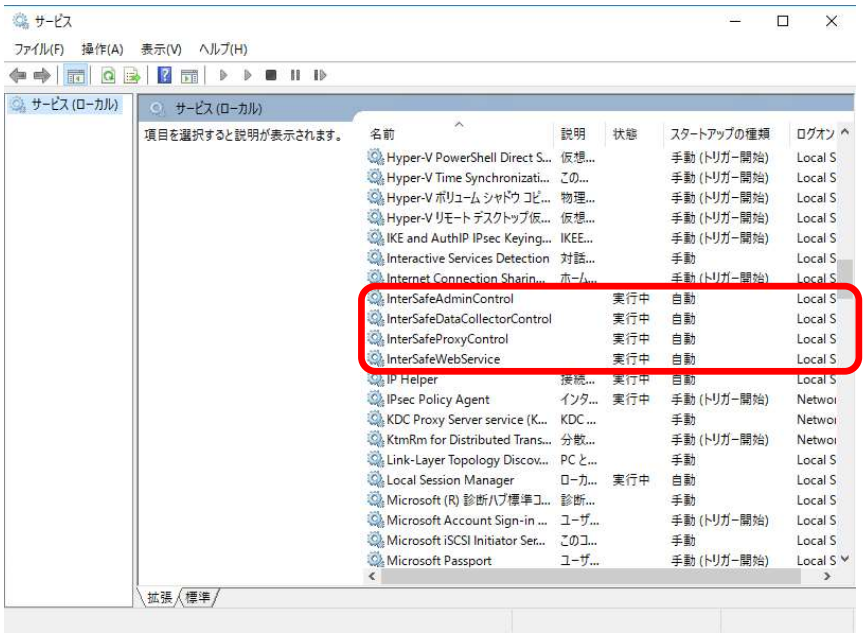
WebFilter のサービスを起動 / 停止するには、Windows の[Windows 管理ツール]の[サービス]を使用します。

- サービス停止手順は、ご利用バージョンの WebFilter の管理者マニュアルもご参照ください。
- サービスの起動 / 停止は管理者(Administrator)権限で実行してください。

1) サービスの起動 / 停止を実行可能なユーザーアカウントで Windows にログインします。

2) [スタート] → [Windows 管理ツール] → [サービス]を開きます。

図 2-1



3) 停止または開始したいサービスを選択して、[操作]メニューかサービスを右クリックし、[開始]または[停止]します。

WebFilter で使用しているサービスは以下の 4 つです。

- InterSafeAdminControl : 管理サービス
- InterSafeProxyControl : フィルタリングサービス
- InterSafeWebService : 拡張 Web サービス
- InterSafeDataCollectorControl : 集計サービス（Ver9.0 以降） ※プライマリのみ

2-3. 既存設定のバックアップ

既存環境のデータのバックアップを行います。バックアップが必要なフォルダについては以下の通りです。

表 2-3

説明	バックアップするフォルダ/ファイル
設定ファイル	<WebFilter インストールフォルダ>¥conf フォルダごと
各種ログ	<WebFilter インストールフォルダ>¥logs フォルダごと
管理画面を HTTPS プロトコルで使用している場合	<WebFilter インストールフォルダ>¥tomcat¥.keystore ファイル

- WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

2-4. プライマリサーバの上書きインストール

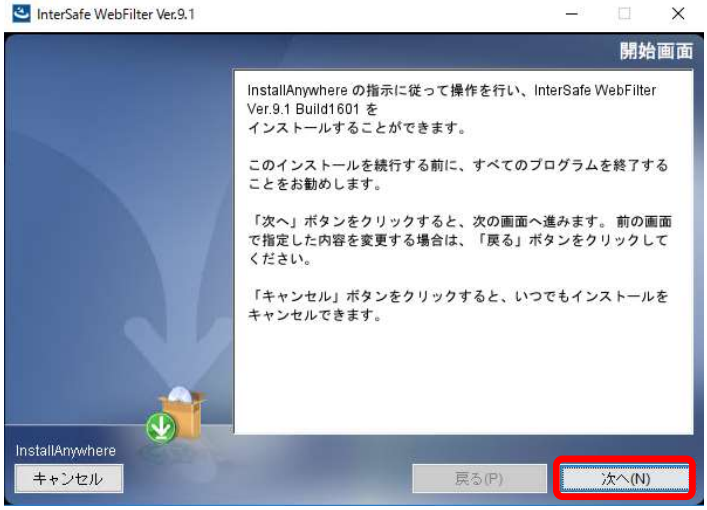
Ver8.5 SP2 導入済みのサーバに Ver9.1 SP3 を上書きインストールすることで、設定情報を引き継いでバージョンアップを行うことが可能です。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.1 SP3 のイントールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- WebFilter のサービスを予め停止しておいてください。サービスの停止手順は、P.6「2-2.サービスの起動/停止について」をご参照ください。

1) インストールを実行するコンピュータに管理者(Administrator)権限を持つユーザーアカウントでログインします。

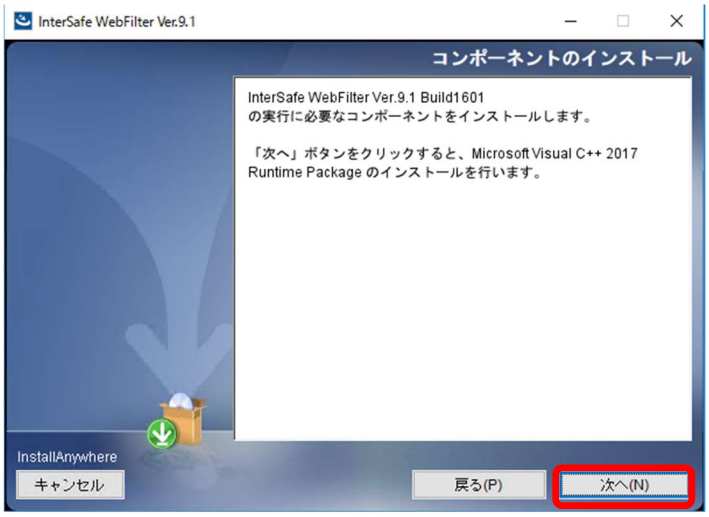
2) Ver9.1 SP3 のインストールプログラム「setup.exe」を実行します。セットアッププログラムが起動しますので「次へ」を選択します。

図 2-2



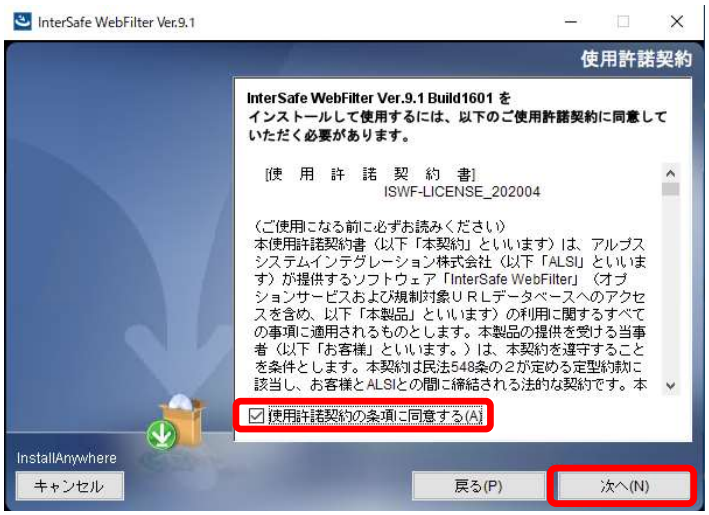
3) 必要なコンポーネントがインストールされていない場合、コンポーネントのインストール画面が表示されますので、「次へ」を選択し、コンポーネントをインストールします。

図 2-3



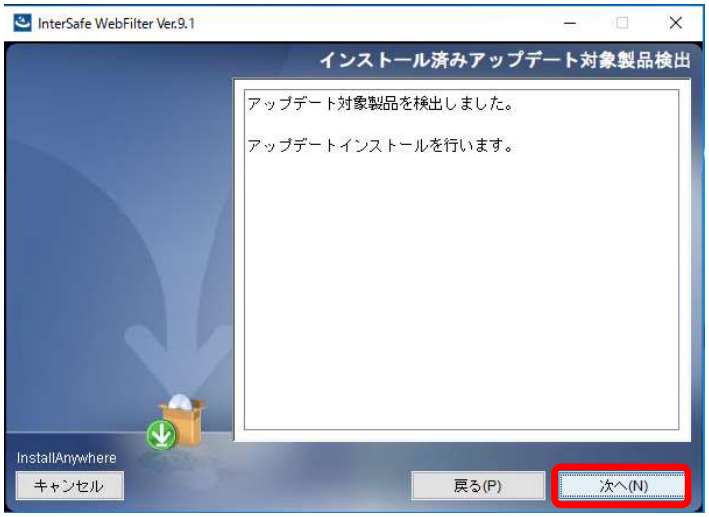
4) 使用許諾契約画面が表示されますので、画面を下までスクロール後、使用許諾契約に同意していただき、「次へ」を選択します。

図 2-4



5) バージョンアップの場合、自動でアップデート検出を行います。「次へ」を選択します。

図 2-5



6) サービス停止の警告画面が表示されますので、サービスが稼働中の場合は停止します。停止したら「OK」を選択します。

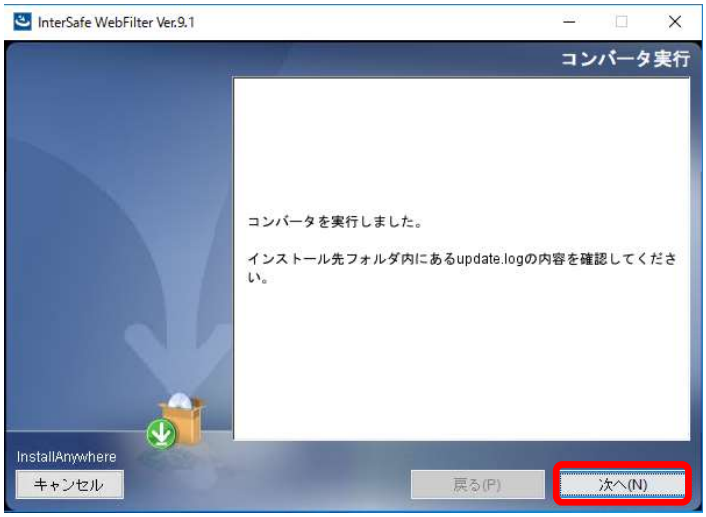
図 2-6

7)　インストール確認画面が表示されます。内容に問題がない場合、「インストール」を選択します。

図 2-7

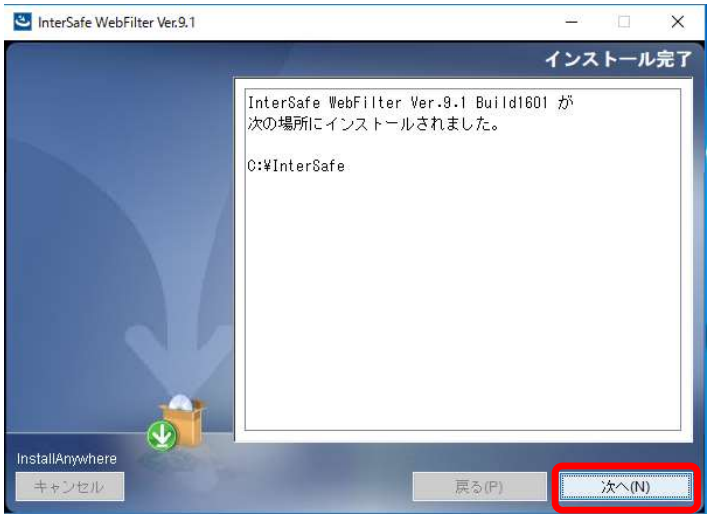
8)　コンバート処理の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 2-8



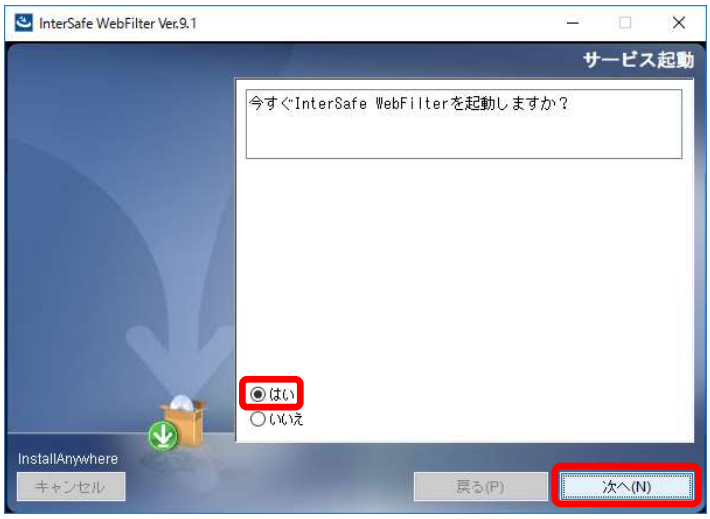
9)　インストールした内容が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 2-9



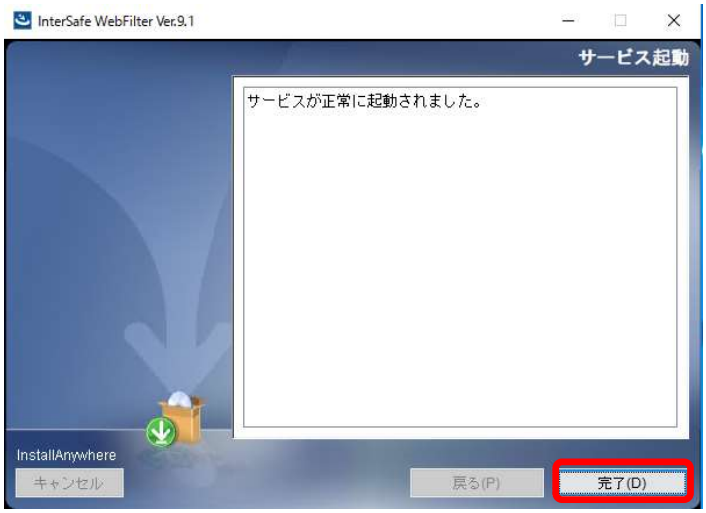
10) インストールが完了するとサービスの起動を要求されますので、[はい]を選択し、「次へ」を選択しサービスを起動します。

図 2-10



11) サービスが起動しましたら、プライマリサーバの Ver8.5 SP2 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップは完了です。

図 2-11



● サービスの起動確認は、P.6「2-2.サービスの起動/停止について」をご参照ください。

2-5.注意事項の確認/設定

バージョンアップに伴う、既存運用から変更になる点などを確認し、必要があれば設定を変更します。

変更の内容は環境によって異なります。項目の詳細については、下記の弊社 FAQ をご参照ください。

No.2244「バージョンアップ時の注意点などありますか？」

https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=2244&category=&page=1

● Ver9.1 SP3 にて追加された機能につきましては、WebFilter の管理者マニュアルをご参照の上、必要に応じて別途設定を行ってください。

2-6. URL DBダウンロード

バージョンアップ直後は、URL DB はサンプル URL DB となる場合があるため、手動でフル URL DB をダウンロードします。

1) ブラウザを起動し、プライマリサーバの管理画面にアクセスします。

アクセス URL はデフォルトで 「http://<プライマリサーバの IP アドレス>:2319/」です。

2) ログイン後、[サーバ管理] → [データベース設定] をクリックします。

図 2-12

3) [データベース更新] ボタンをクリックすると、確認のダイアログが表示されます。

図 2-13

● プライマリ/レプリカ構成で、プライマリサーバのみ URL DB をダウンロードする場合は、プライマリサーバの右にある[選択]ボタンをクリックし、[▶ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンをクリックし、URL DB のダウンロードを行なってください。

4) 確認のダイアログの[OK]ボタンをクリックし、URL DB をダウンロードします。

5) [データベース設定] 画面にて[再表示] ボタンをクリックし、[データベース情報] が更新されていることを確認します。

以上で、プライマリサーバの URL DB ダウンロードは完了です。

● この時点で、最新 URL DB によるフィルタリングが可能になります。

3. 複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順

ここでは、プライマリ/レプリカ構成(複数台構成)をそれぞれ同一筐体上で Ver8.5 SP1 から Ver9.1 SP3 へバージョンアップを行う詳細について説明します。Ver8.0～Ver9.1 SP2 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

Ver7.0 以前のバージョンからバージョンアップを行う場合は、一旦 Ver8.0 以降にバージョンアップ後、Ver9.1 SP3 へのバージョンアップを行ってください。

3-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 3-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	日本語版 Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard 64bit	Proxy Ver8.5 SP1 Build0876 on Windows
移行後	日本語版 Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard 64bit	Proxy Ver9.1 SP3 Build1601 on Windows

作業項目一覧

バージョンアップ時の作業項目は以下の通りです。

- プライマリサーバとレプリカサーバが同一バージョンになる前に管理画面を操作した場合、レプリカサーバへの同期は行われません。
  プライマリサーバとレプリカサーバが同一バージョンになった後に、手動で同期してください。
  また、可能な限り、バージョンアップ中は設定変更を行わないで下さい。

表 3-2

作業サーバ	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
プライマリ	プライマリサーバのバージョンアップ作業(「2.単体構成+同一筐体でのバージョンアップ手順」をご参照ください。) ● URL DB ダウンロードはプライマリサーバのみで実施します。	35 分	
レプリカ	サービス停止（3-2.参照）	5 分	
	Ver8.5 SP1 のログフォルダバックアップ（3-3.参照）	10 分	
	Ver9.1 SP3 の上書きインストール（3-4.参照）	10 分	
プライマリ	レプリカサーバの URL DB ダウンロード（3-5.参照）	5 分	
バージョンアップ終了		計 1 時間 5 分	

3-2. レプリカサーバのサービスの停止/起動について

- サービスの停止/起動手順は、P.6「2-2.サービスの起動/停止について」をご参照ください。

3-3. レプリカサーバの既存設定のバックアップ

既存環境のバックアップを行います。バックアップが必要なフォルダについては以下の通りです。

表 3-3

説明	バックアップするフォルダ/ファイル
各種ログ	<WebFilter インストールフォルダ>¥logs フォルダごと

- 設定ファイルはプライマリサーバと同期した際、最新の情報に置き換わるためレプリカサーバ側でバックアップする必要はありません。
- WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

3-4. レプリカサーバの上書きインストール

ここでは、レプリカサーバの上書きインストール手順について説明します。

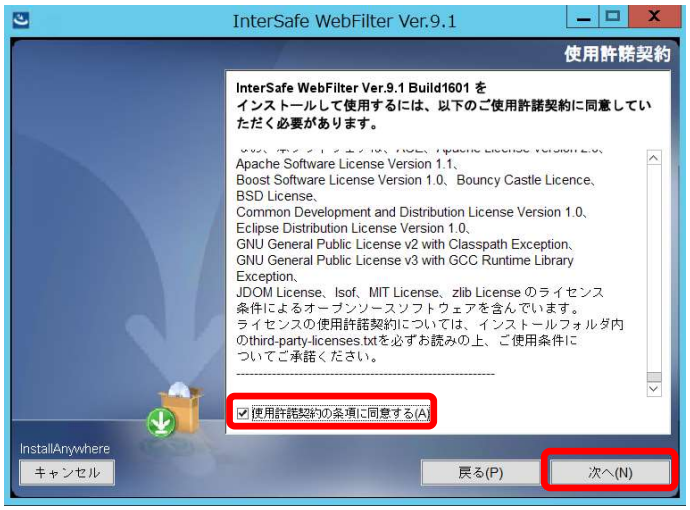
- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.1 SP3 のイントールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。

1) インストールを実行するコンピュータに管理者(Administrator)権限を持つユーザーアカウントでログインします。
2) Ver9.1 SP3 のインストールプログラム「setup.exe」を実行します。セットアッププログラムが起動しますので「次へ」を選択します。

図 3-1

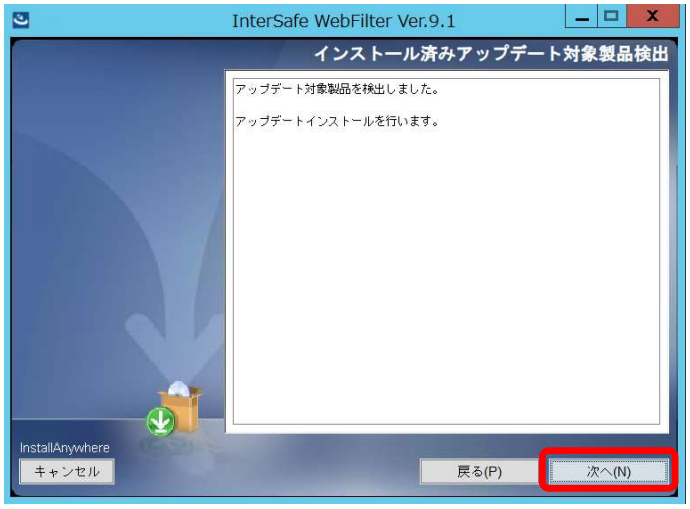
3)　使用許諾画面が表示されますので、同意していただき、「次へ」を選択します。

図 3-2



4)　バージョンアップの場合、自動でアップデート検出を行います。「次へ」を選択します。

図 3-3



5)　サービス停止の警告画面が表示されますので、サービスが稼働中の場合は停止します。停止したら「OK」を選択します。

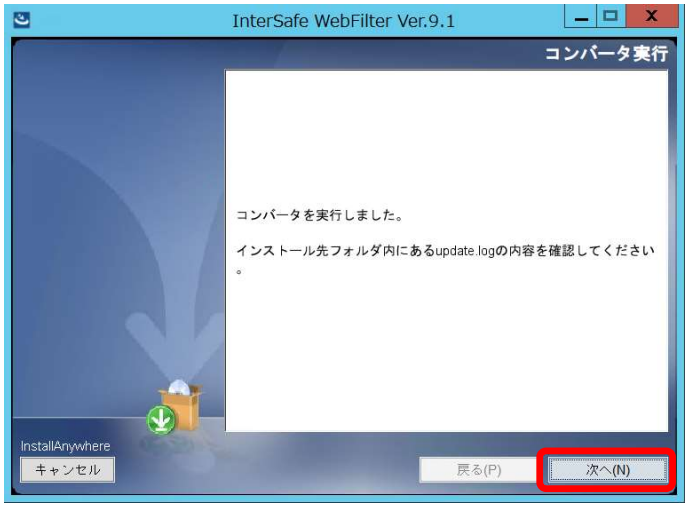
図 3-4

6)　インストール確認画面が表示されます。内容に問題がない場合、「インストール」を選択します。

図 3-5

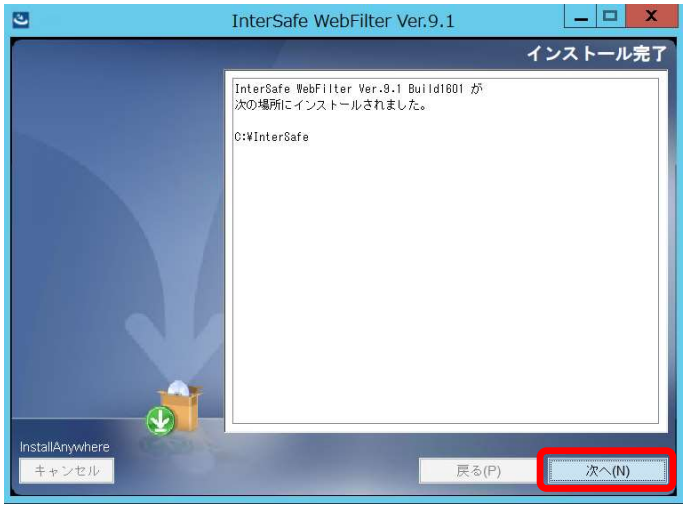
7)　コンバート処理の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 3-6



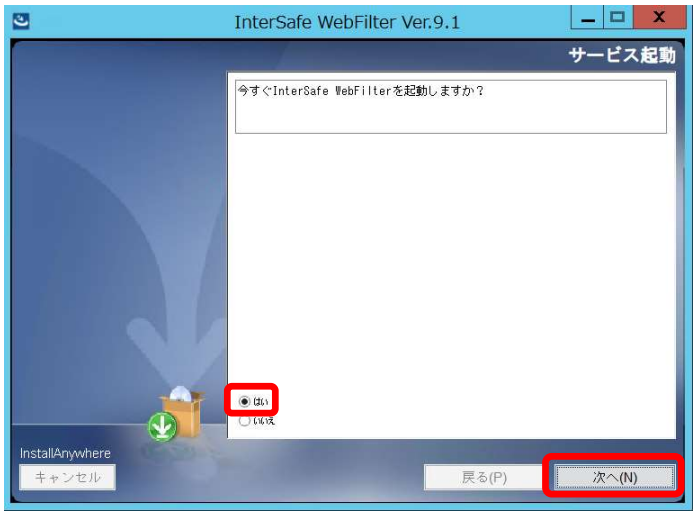
8)　インストールした内容が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 3-7



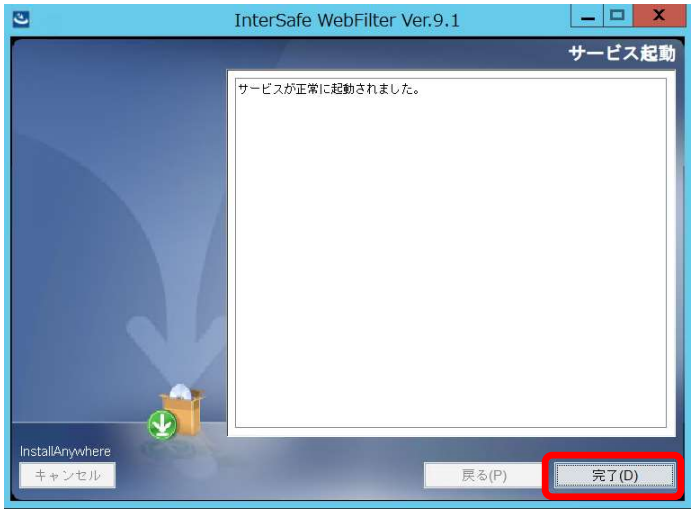
9)　インストールが完了するとサービスの起動を要求されますので、[はい]を選択し、「次へ」を選択しサービスを起動します。

図 3-8



10)　サービスが起動しましたら、レプリカサーバの Ver8.5 SP1 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップは完了です。

図 3-9



● サービスの起動確認は、P.6「2-2.サービスの起動/停止について」をご参照ください。

3-5.URL DBダウンロード

バージョンアップ直後は、URL DB はサンプル DB となるため、手動でフル DB をダウンロードします。

ここではレプリカサーバのみ URL DB のダウンロードが完了していないことを想定し、管理画面よりレプリカサーバのみ URL DB ダウンロードを行います。

● 以下はプライマリサーバにおける操作です。

1) [サーバ管理] → [データベース設定]をクリック(図 2-12 を参照)します。

［データベース設定］が表示されます。

2) ダウンロードを実行したいレプリカサーバの右にある[選択]ボタンをクリックします。

［データベース設定編集］が表示されます。

3) [▸ ライセンス設定]、[▸ 上位プロキシサーバ設定]に適切な値を入力します。

● [▸ ライセンス設定]では、ライセンスキー、企業・団体名、メールアドレスは必須項目です。

4) 画面右上、[保存]をクリックし、現在の設定を反映します。

5) [▸ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンをクリックします。

確認のダイアログが表示されます。

● [▸ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンは、プライマリサーバの URL DB と対象のレプリカサーバの URL DB の DB バージョンに差異がある時のみ表示されます。プライマリサーバの URL DB と差異がない場合は、[データベース設定] に戻り、[データベース更新] ボタンにて URL DB をダウンロードしてください。この場合、全てのサーバに対して URL DB のダウンロードが行われます。

6) [OK] ボタンをクリックし URL DB をダウンロードします。

7) URL DB ダウンロード後、[データベース設定] に戻り[データベース情報] が更新されていることを確認します。

以上で、レプリカサーバのバージョンアップ作業は完了です。

4. OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順

ここでは既存のプライマリ/レプリカサーバのどちらかは稼動させたまま、新規筐体にて Ver9.0 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップ作業を行い、かつ既存筐体と新規筐体の OS が変更になる場合の手順の例を説明します。Ver8.0～Ver9.1SP2 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

Ver7.0 以前のバージョンからバージョンアップを行う場合は、一旦 Ver8.0 にバージョンアップ後、Ver9.1 SP3 へのバージョンアップを行う必要があります。

- この章での OS の変更は、Linux → Windows などの変更は含まれません。OS バージョンを Windows 2008 → Windows 2016 などへの変更が対象です。同一バージョンで Linux や Solaris → Windows へ OS 変更をする場合は P.32「5.異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順」をご参照ください。
- 製品の移行(ICAP 版 → Proxy 版、Proxy 版 → ICAP 版)についてはサポート対象外です。

4-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 4-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	日本語版 Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	Proxy Ver9.0 Build1101 on Windows
移行後	日本語版 Microsoft Windows Server 2019 Standard	Proxy Ver9.1 SP3 Build1601 on Windows

前提条件

記載されている手順は、以下を前提としております。

- Ver9.0 の情報を保持し、Ver9.1 SP3 へバージョンアップを行う。
- 既存サーバ筐体は Ver9.0 で運用されている。
- プライマリ/レプリカ新規筐体に Windows Server 2019 OS がインストールされている。
- プライマリ/レプリカの旧/新規筐体の IP アドレスはすべて異なるものが付与されている。
- Ver9.1 SP3 のインストールプログラムがプライマリ/レプリカ新規筐体のサーバ上に保存されている。

- Ver9.1 SP3 のプログラムの入手方法については、P.4「1-2. 各バージョンプログラム入手方法について」をご参照ください。

作業項目一覧

表 4-2

作業筐体	サーバ種別	WebFilter Ver.	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
既存 (Win2012)	プライマリ	9.0	Ver9.0 の conf フォルダとログフォルダをバックアップ	10 分	
新規 (Win2019)	プライマリ	9.0	既存筐体の Ver9.0 の conf フォルダをコピー	5 分	
		9.0 ↓ 9.1 SP3	Ver9.1 SP3 へバージョンアップ → OS 再起動	15 分	
		9.1 SP3	注意事項の確認/設定	15 分	
			URL DB ダウンロード	5 分	
既存 (Win2012)	レプリカ	9.0	Ver9.0 のログフォルダをバックアップ	10 分	
新規 (Win2019)	レプリカ	9.1 SP3	Ver9.1 SP3 を新規インストール → OS 再起動	15 分	
新規 (Win2019)	プライマリ	9.1 SP3	レプリカサーバの削除/登録	5 分	
新規 (Win2019)	レプリカ	9.1 SP3	サービス再起動	5 分	
			URL DB ダウンロード	5 分	
バージョンアップ終了				計 90 分 (1 時間 30 分)	

4-2. バージョンアップ手順

プライマリサーバの構築

プライマリサーバを新規筐体で Ver9.1 SP3 へバージョンアップします。

1) P.6「2-3. 既存設定のバックアップ」を参照して、既存筐体の WebFilter の設定情報をバックアップします。

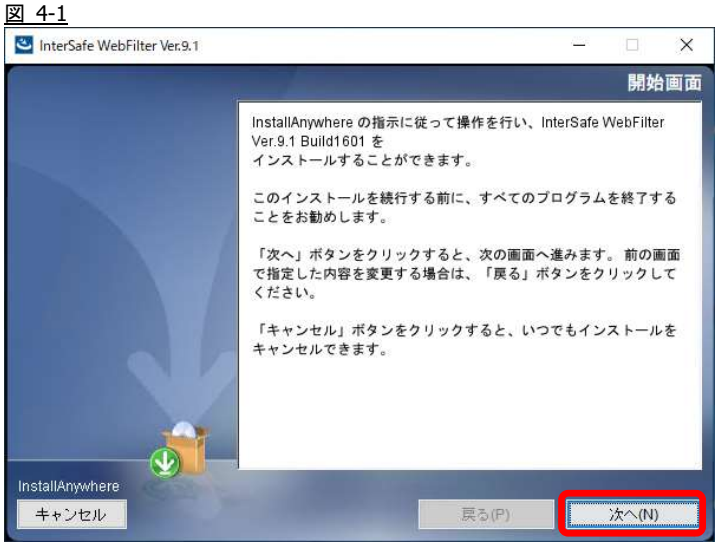
2) インストールを実行するコンピュータに管理者(Administrator)権限を持つユーザーアカウントでログインします。

3) 1)でバックアップしておいた設定フォルダを、新規筐体上の Ver9.0 のインストール場所と同じ場所にコピーします。

● WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

4) Ver9.1 SP3 を上書きインストールします。Ver9.1 SP3 のインストールプログラム「setup.exe」を実行します。セットアッププログラムが起動しますので「次へ」を選択します。

図 4-1



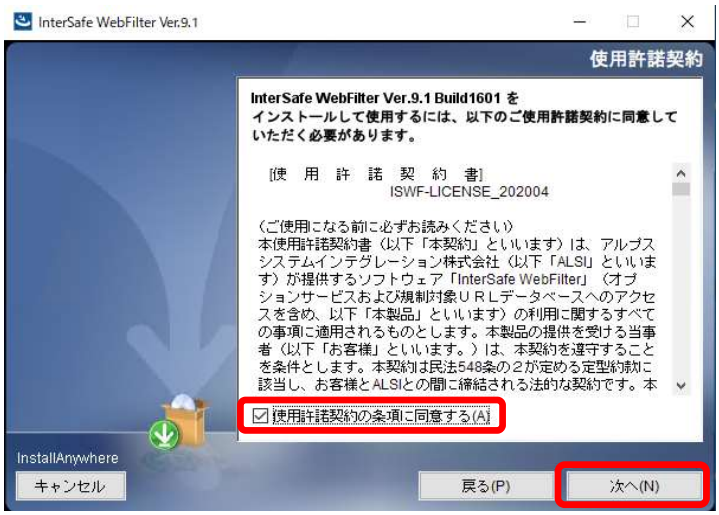
5) インストールに必要なコンポーネントのインストール画面が表示されますので「次へ」を選択します。

● 表示されない場合は、6)に進みます。

図 4-2

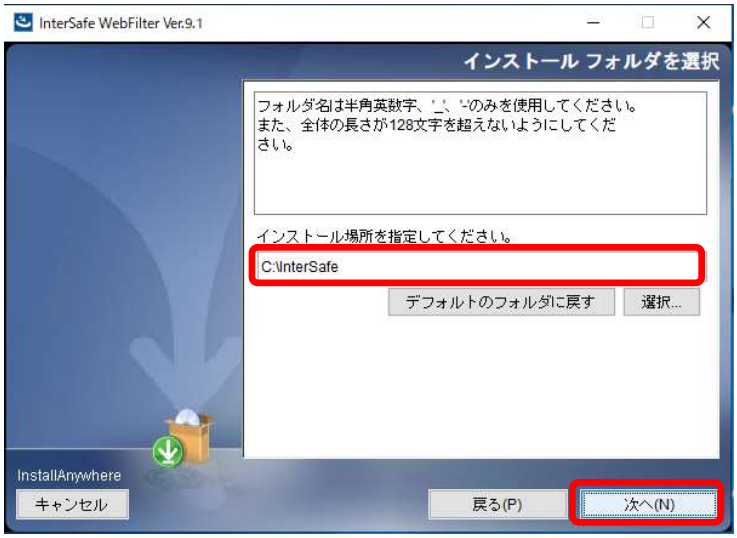
6)　コンポーネントがインストールされると使用許諾画面が表示されますので、同意していただき、「次へ」を選択します。

図 4-3



7)　インストールするフォルダを指定し、「次へ」を選択します。

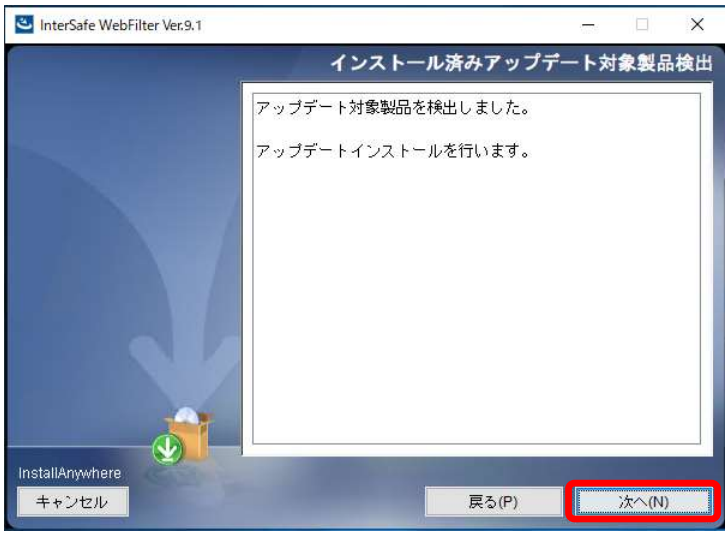
図 4-4



● インストールフォルダは、3)で設定フォルダをコピーした場所と同じ場所を指定してください。同じ場所を指定しない場合、新規インストールとなります。

8)　自動でアップデート検出を行います。「次へ」を選択します

図 4-5

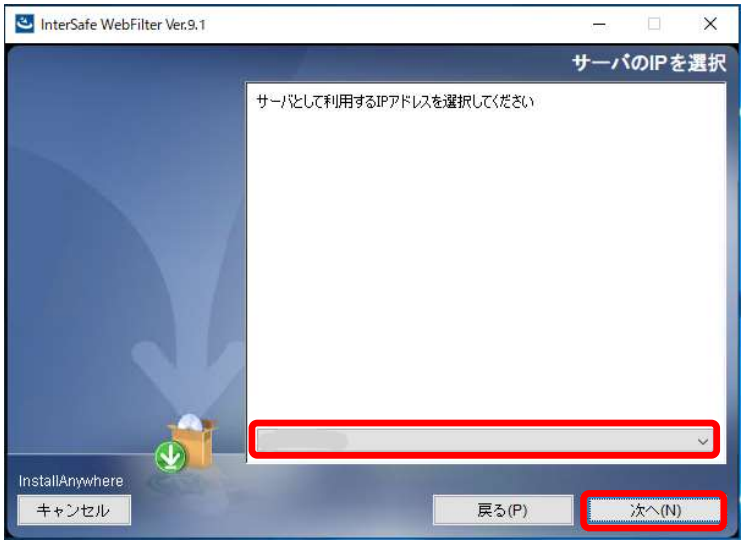


9)　サービス停止の警告画面が表示されますので、「OK」を選択します。

図 4-6

10)　利用する IP アドレスを選択して、「次へ」を選択します。

図 4-7

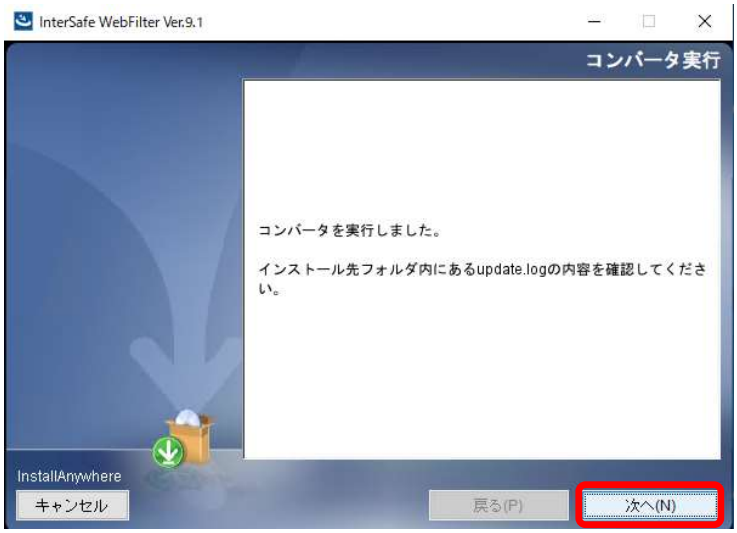


11) インストール確認画面が表示されます。内容に問題がない場合、「インストール」を選択します。

図 4-8

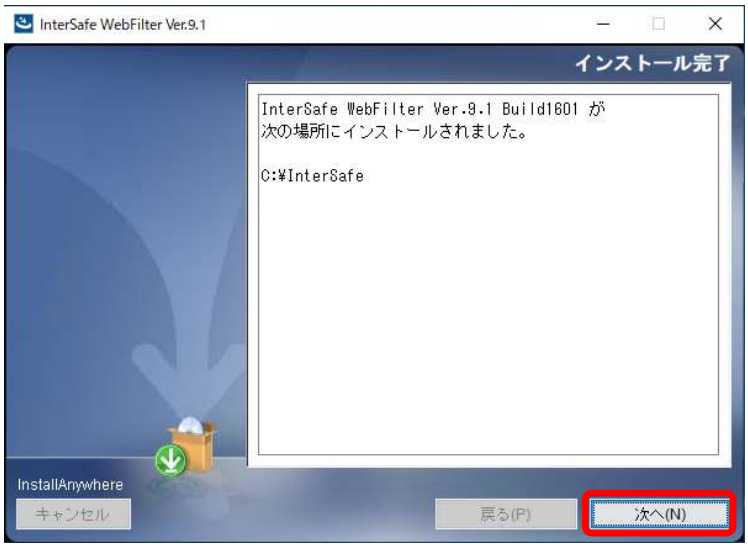
12) コンバート処理の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 4-9



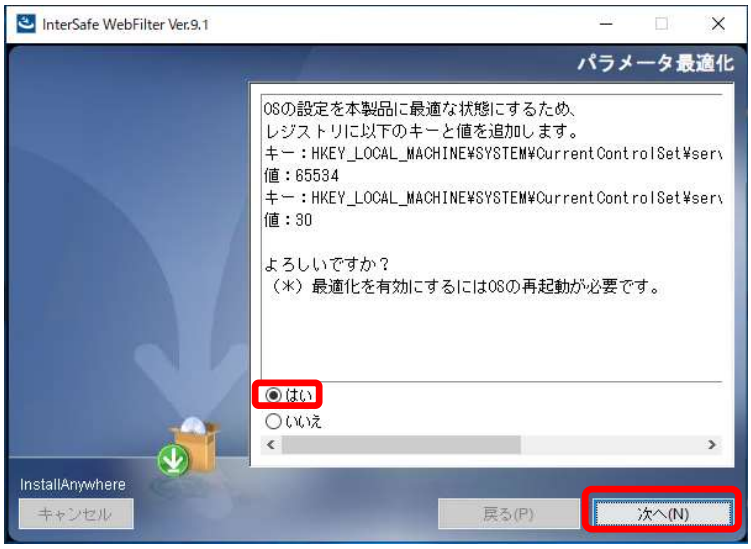
13) インストールした内容が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 4-10



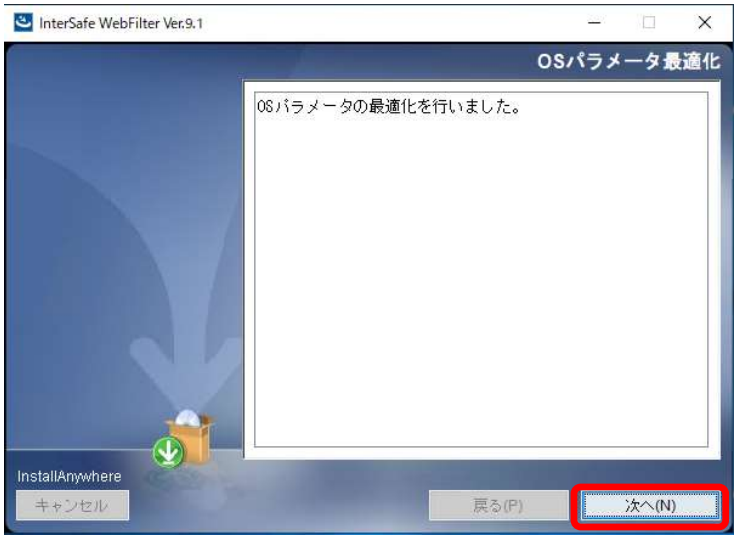
14) OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。最適化する場合は、[はい]を選択して、「次へ」を選択します。

図 4-11



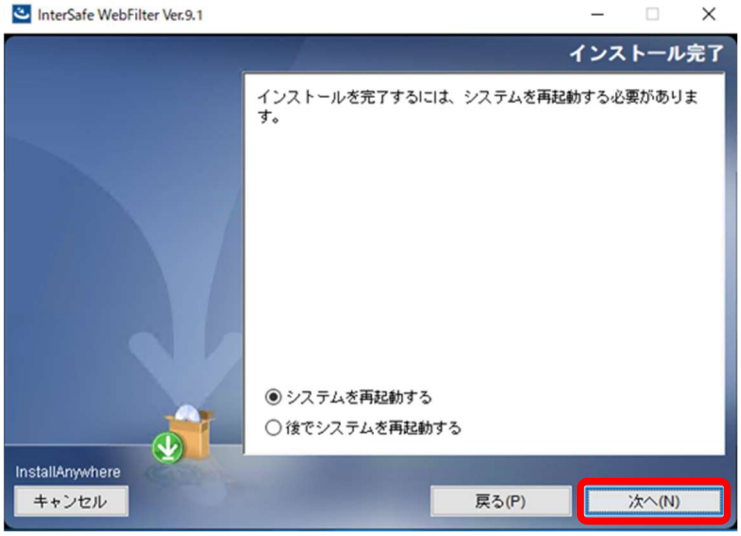
15) OS パラメータの最適化の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 4-12



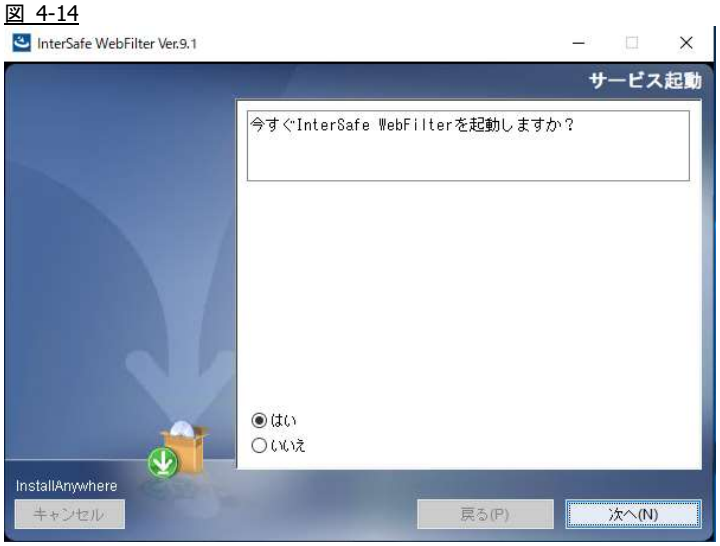
16) OS パラメータの最適化を行った場合、システムの再起動を要求されますので、再起動を実施します。OS 再起動後は自動で WebFilter のサービスが起動します。

図 4-13



17) OS パラメータの最適化を行わない場合、システムの再起動は行われず、WebFilter のサービスの起動確認画面が表示されます。

図 4-14



● サービスの起動確認は、P.6「2-2.サービスの起動/停止について」をご参照ください。

18) P.11「2-5.注意事項の確認/設定」を参照して、必要があれば設定を変更します。

19) P.11「2-6.URL DB ダウンロード」を参照して、プライマリサーバのみ手動でフル URL DB をダウンロードします。

● 新規環境と既存環境を 1 週間以上並行稼動する場合は、ライセンスキーを重複利用しないよう、どちらかの環境用に試用版のライセンスキーをご準備ください。試用版ライセンスキーは「https://www.alsi.co.jp/trial/iswf/」より取得できます。

レプリカサーバの構築

レプリカサーバを新規筐体に新規インストールし、プライマリサーバより同期を行います。

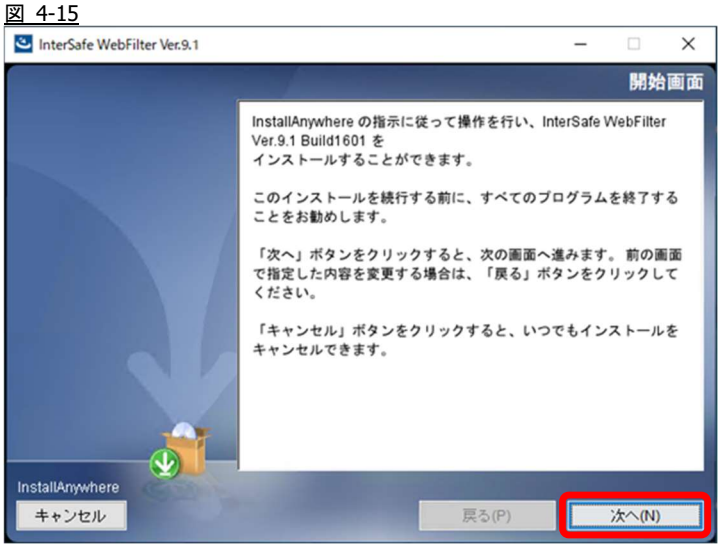
1) P.13「3-3.レプリカサーバの既存設定のバックアップ」を参照して、既存筐体のレプリカサーバのログファイルのバックアップを行います。

2) レプリカサーバの新規筐体に管理者(Administrator)権限を持つユーザーアカウントでログインします。

● インストールの手順は、対象バージョンの WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。

3) Ver9.1 インストールプログラム「setup.exe」を実行します。セットアッププログラムが起動しますので「次へ」を選択します。

図 4-15



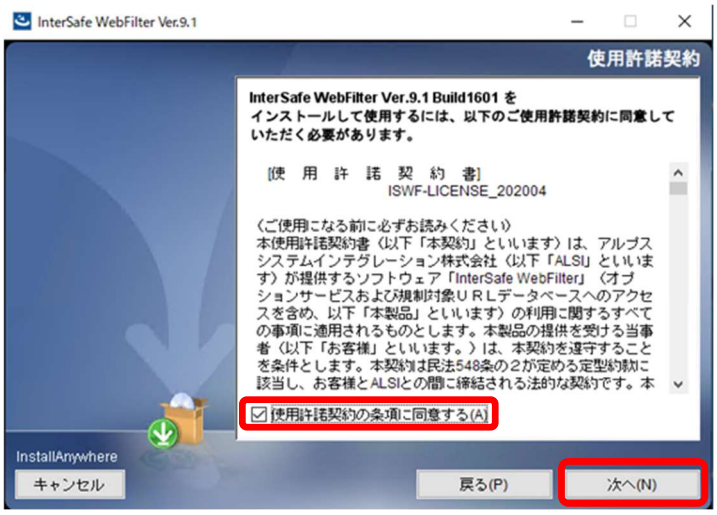
4) インストールに必要なコンポーネントのインストール画面が表示されますので「次へ」を選択します。

● 表示されない場合は、5)に進みます。

図 4-16

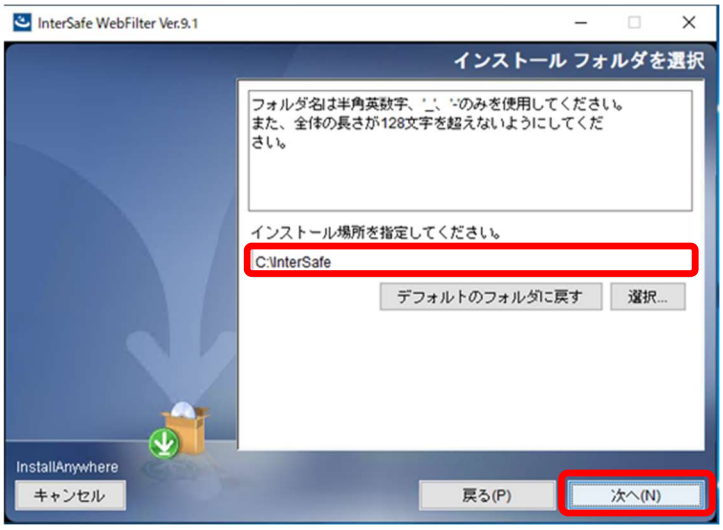
5)　コンポーネントがインストールされると使用許諾画面が表示されますので、同意していただき、「次へ」を選択します。

図 4-17



6)　インストールするフォルダを指定し、「次へ」を選択します。

図 4-18

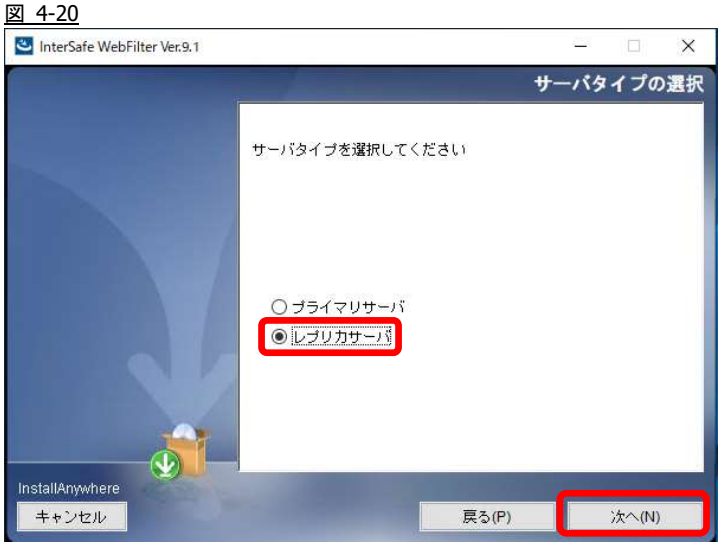


7)　サービス停止の警告画面が表示されますので、「OK」を選択します。

図 4-19

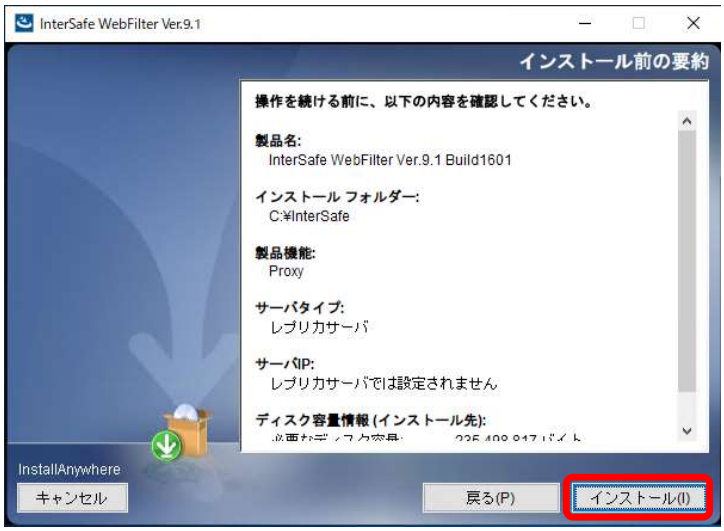
8)　インストールタイプで「レプリカサーバ」を選んで、「次へ」を選択します。

図 4-20



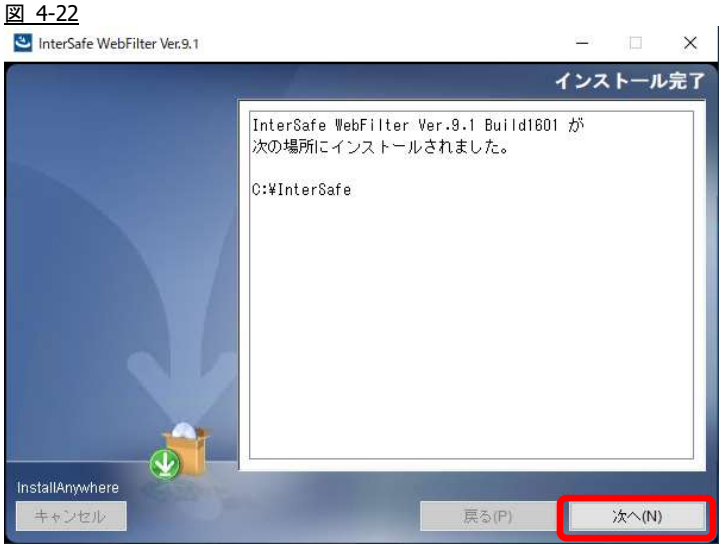
9)　インストール確認画面が表示されます。内容に問題がない場合、「インストール」を選択します。

図 4-21



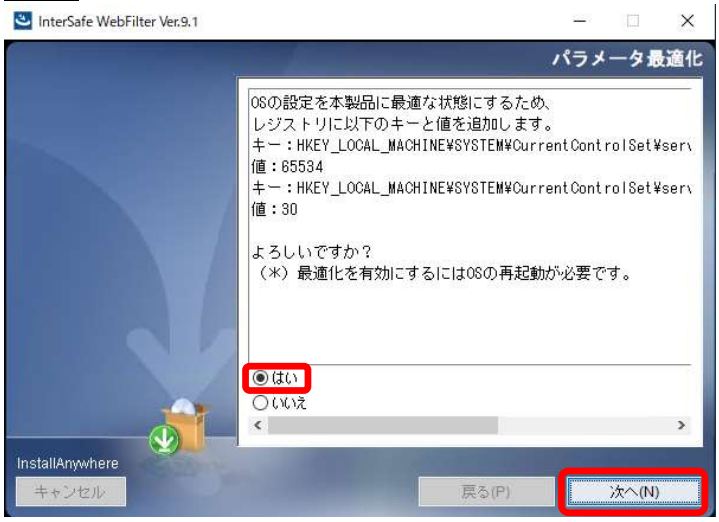
10)　インストールした内容が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 4-22



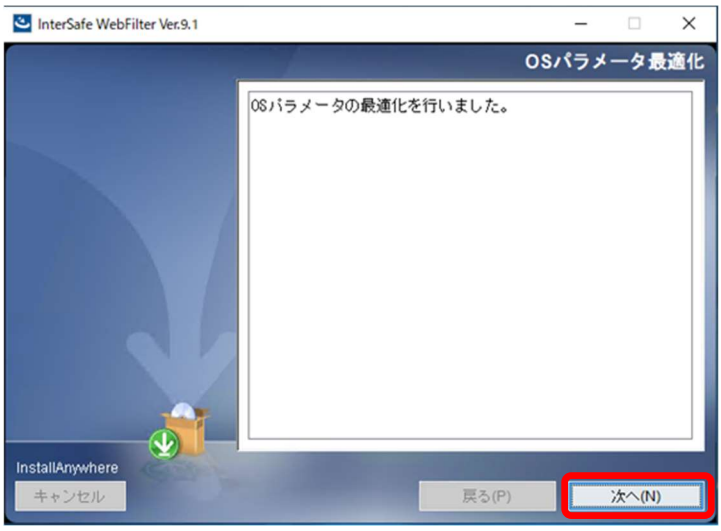
11) OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。最適化する場合は、[はい]を選択して、「次へ」を選択します。

図 4-23



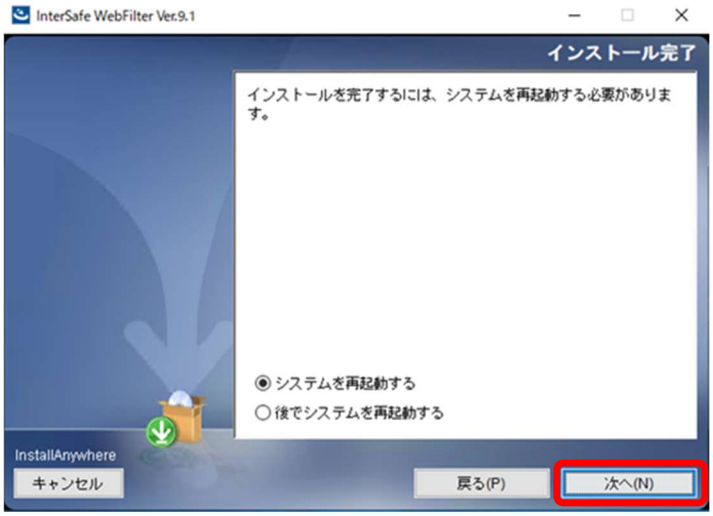
12) OS パラメータの最適化の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 4-24



13) OS パラメータの最適化を行った場合、OS の再起動を要求されますので、再起動を実施します。OS 再起動後は自動で WebFilter のサービスが起動します。

図 4-25



● OS パラメータの最適化を行わない場合、システムの再起動は行われず、サービスの起動確認が行われます。(図 4-14 を参照)

14) プライマリサーバの管理画面にアクセスします。

アクセス URL はデフォルトで 「http://<プライマリサーバの IP アドレス>:2319/」です。

15) ログイン後、[サーバ管理] → [サーバ設定] をクリックします。

図 4-26

16) 既存のレプリカサーバの右にある[選択]ボタンをクリックします。

図 4-27

17) 画面右上の[削除]ボタンをクリックします。

図 4-28

● 旧レプリカサーバと疎通が取れる環境で旧レプリカサーバを削除すると、旧レプリカサーバのフィルタリングサービスと拡張 Web サービスが停止します。新プライマリサーバと旧レプリカサーバとは疎通が取れない環境であることをご確認後、[削除] をクリックしてください。

18) 確認のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

19) 以下のメッセージが表示される場合がありますが、プライマリサーバとレプリカサーバのバージョンが違うために発生しているので特に問題ありません。そのまま、[OK] ボタンをクリックします。

図 4-29

20) 「削除が完了しました。」のメッセージが表示され、管理画面よりレプリカサーバが削除されます。続いて新規レプリカサーバを登録するため、[+サーバを追加] をクリックします。

図 4-30

21) レプリカサーバの情報を入力します。

22) 画面右上の [保存] ボタンをクリックします。

23) 確認のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

24) 「登録が完了しました」と表示されます。

25) 登録したレプリカサーバのすべてのサービスを再起動してください。

● サービスの起動 / 停止手順は、P.6「2-2.サービスの起動/停止について」をご参照ください。

26) P.17「3-5. URL DB ダウンロード」を参照して、レプリカサーバのみ手動でフル URL DB をダウンロードします。

● 新規環境と既存環境を 1 週間以上並行稼動する場合は、ライセンスキーを重複利用しないよう、どちらかの環境用に試用版のライセンスキーをご準備ください。試用版ライセンスキーは「https://www.alsi.co.jp/trial/iswf/」より取得できます。

以上で、バージョンアップ作業は完了です。

5. 異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順

Ver8.5 以降では、異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップをサポートしています。

ここでは、保存/復旧機能を使って、異なる OS 間でのバージョンアップする手順を説明します。

- 異なる OS とは Linux / Solaris → Windows への変更を示しています。また、32bit → 64bit と OS のアーキテクチャが変更になる場合もこちらの手順でバージョンアップが可能です。
- 設定ファイルの保存/復旧を行う場合、新旧サーバは同じバージョン、ビルドである必要があります。

5-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 5-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	Redhat Linux 7	Proxy Ver8.5 SP2 Build1003 on Linux
移行後	日本語版 Microsoft Windows Server 2019 Standard	Proxy Ver9.1 Build1601 on Windows

前提条件

記載されている手順は、以下を前提としております。

- Ver8.5 SP2 の情報を保持し、Ver9.1 SP3 へバージョンアップを行う。
- 既存サーバ筐体は Ver8.5 SP2 で運用されている。
- 旧環境の OS が Ver9.1 SP3 のサポート対象 OS である。もしくは旧環境の WebFilter を Ver9.1 SP3 までバージョンアップできる環境が用意されている。
- 新規筐体に Windows Server 2019 OS がインストールされている。
- Ver9.1 SP3 のインストールプログラムが旧/新規筐体のサーバ上に保存されている。

- Ver9.1 SP3 のプログラム入手方法については、P.4「1-2. 各バージョンプログラム入手方法について」をご参照ください。

作業項目一覧

表 5-2

作業筐体	WebFilter Ver.	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
既存 (RH7)	8.5 SP2	サービスの停止	5 分	
		Ver8.5 SP2 の conf および logs ディレクトリをバックアップ	10 分	
	8.5 SP2 ↓ 9.1 SP3	Ver9.1 SP3 へバージョンアップ → サービス起動	10 分	
	9.1 SP3	設定ファイルの保存	5 分	
		新規サーバへ保存した設定ファイルのコピー	5 分	
新規 (Win2019)	9.1 SP3	Ver9.1 SP3 を新規インストール (→ OS 再起動)	15 分	
		設定ファイルの復旧 → サービス再起動	15 分	
		注意事項の確認/設定	15 分	
		URL DB ダウンロード	5 分	
バージョンアップ終了			計 85 分 (1 時間 25 分)	

5-2. バージョンアップ手順

既存サーバのバージョンアップ

既存サーバを Ver9.1 SP3 へバージョンアップします。

● WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。

1) サービスを停止します。

```
# /<WebFilter 導入ディレクトリ>/bin/amsmain stop
```

● WebFilter のデフォルトの導入ディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

2) 既存筐体の WebFilter の設定情報をバックアップします。

設定ファイル： /<WebFilter 導入ディレクトリ>/conf ディレクトリごと

各種ログ ： /<WebFilter 導入ディレクトリ>/logs ディレクトリごと

管理画面を HTTPS プロトコルで使用している場合 ： /<WebFilter 導入ディレクトリ>/tomcat/.keystore ファイル

3) Ver9.1 SP3 を上書きインストールします。Ver.9.1 SP3 のインストールシェルを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

4) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。

5) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。

6) 既存バージョンの WebFilter が検出され、上書きインストールを行うメッセージが表示されます。<Enter>キーを押し、インストールを続行します。

```
Updatable product version was detected.

Installation will be executed as update mode.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

7) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently
running,please stop them.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

8) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?

When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up

  ->1- Automatic setting
    2- Manual setting

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

8)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

8)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、8)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

9) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
  ->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

10) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

11) コンバート処理が実行された旨のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Conversion process was executed.
Check the update.log in the install destination folder.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

12) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver.9.1 Build1601 was installed in the following location.
/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

13) WebFilter のサービスの起動を促すメッセージが表示されます。<Enter>キーを押しサービスを起動し、インストーラを終了します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

設定ファイルの保存

1) 任意の PC にてブラウザを起動し、管理画面にアクセスします。

アクセス URL はデフォルトで 「http://<プライマリサーバの IP アドレス>:2319/」です。

2) ログイン後、[設定情報管理] → [保存/復旧/同期] をクリックします。

図 5-1

3) [▶ 保存/復旧]の「現在の状態を保存する」を選択します。任意のファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックします。

図 5-2

4) 移行先の WebFilter の管理画面を操作可能な PC 上の任意の場所に、保存したバックアップファイルをダウンロードします。

● 保存したバックアップファイルは、管理画面上でファイル名をクリックするとダウンロードできます。

新規サーバの構築

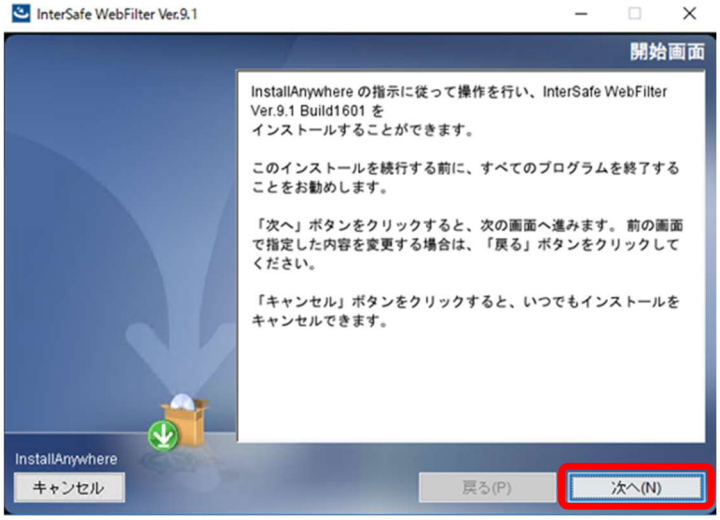
新規サーバに Ver9.1 SP3 を新規インストールします。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.1 SP3 のインストールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。

1) 新規サーバに管理者(Administrator)権限を持つユーザーアカウントでログインします。

2) Ver9.1 SP3 のインストールプログラム「setup.exe」を実行します。セットアッププログラムが起動しますので「次へ」を選択します。

図 5-3



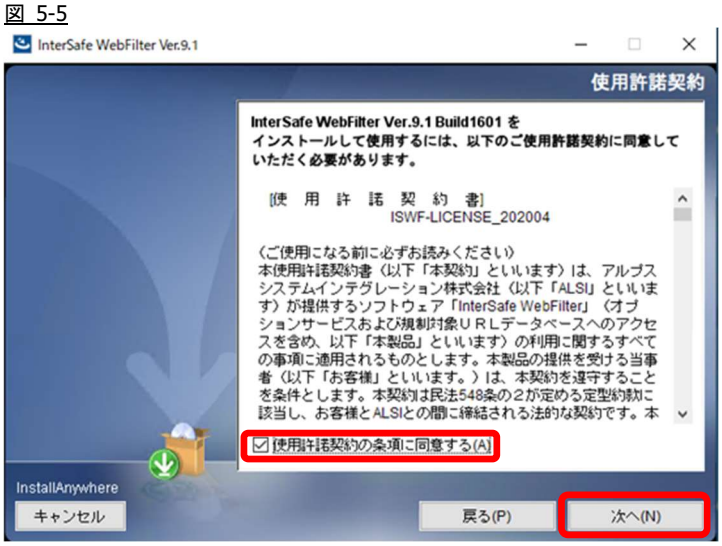
3) インストールに必要なコンポーネントのインストール画面が表示されますので「次へ」を選択します。

図 5-4

- 表示されない場合は、4)に進みます。

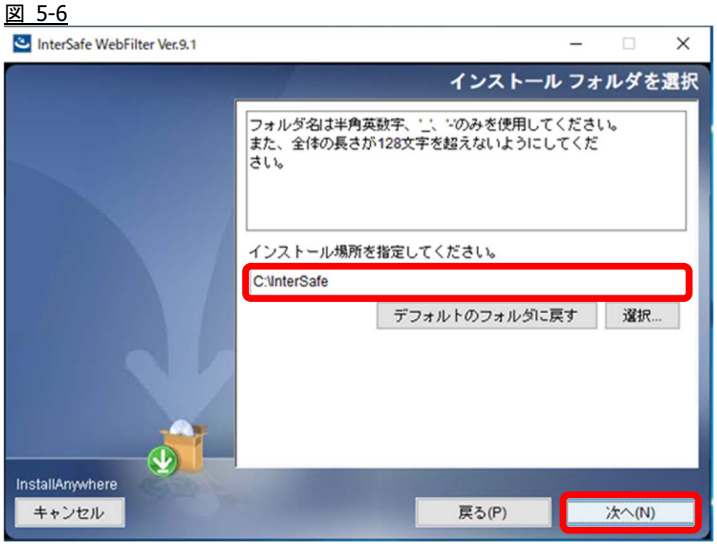
4)　コンポーネントがインストールされると使用許諾画面が表示されますので、同意していただき、「次へ」を選択します。

図 5-5



5)　インストールするフォルダを指定し、「次へ」を選択します。

図 5-6

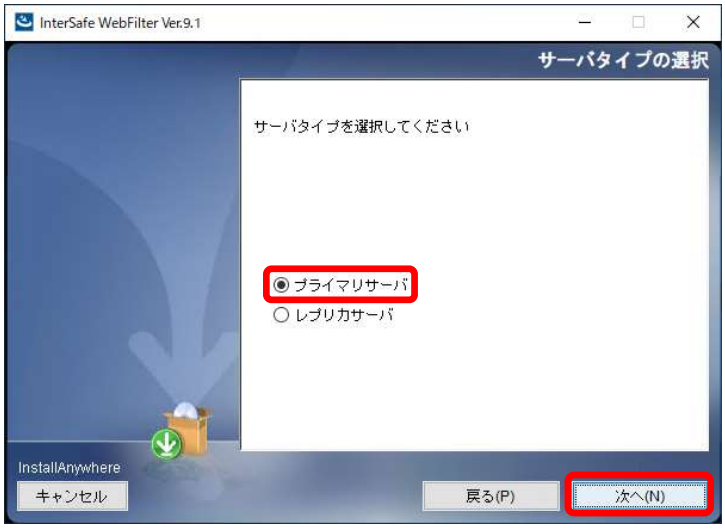


6)　サービス停止の警告画面が表示されますので、サービスが稼働中の場合は停止します。停止したら「OK」を選択します。

図 5-7

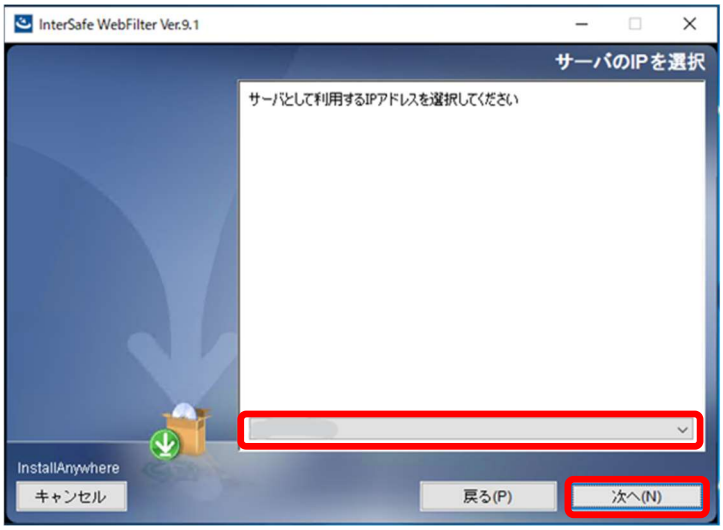
7)　インストールタイプで「プライマリサーバ」を選んで、「次へ」を選択します。

図 5-8



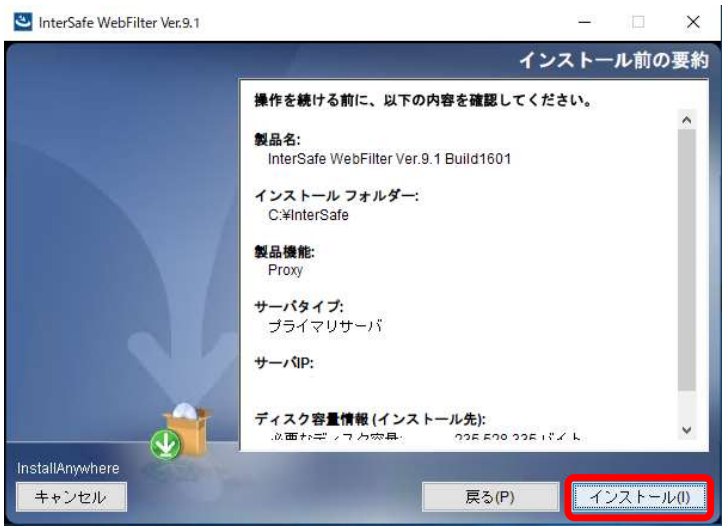
8)　新規サーバの IP アドレスを選択して、「次へ」を選択します。

図 5-9



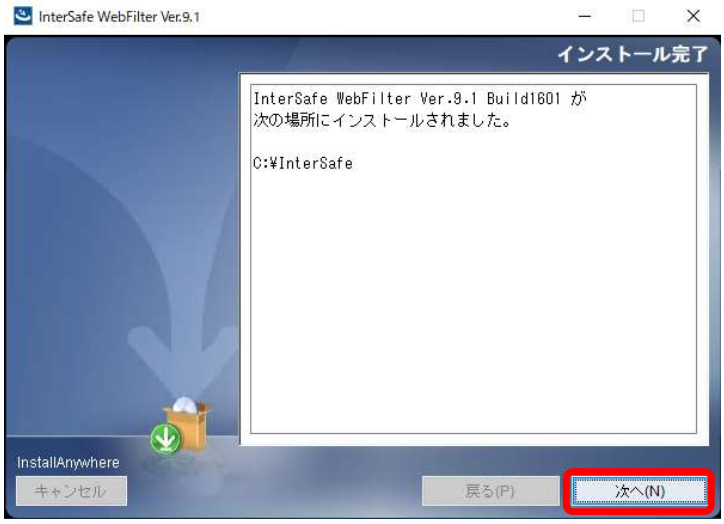
9)　インストール確認画面が表示されます。内容に問題がない場合、「インストール」を選択します。

図 5-10



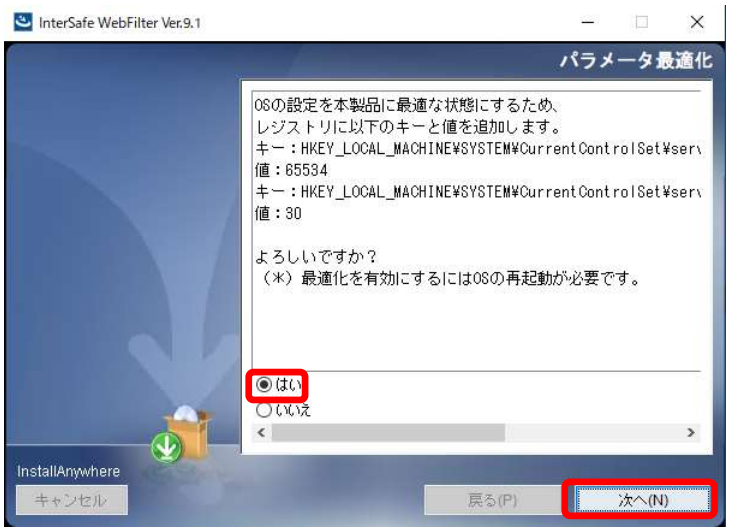
10) インストールした内容が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 5-11



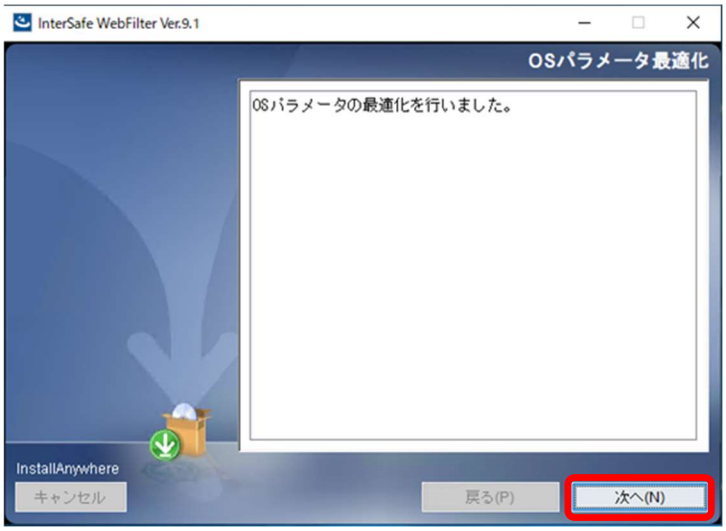
11) OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。最適化する場合は、[はい]を選択して、「次へ」を選択します。

図 5-12



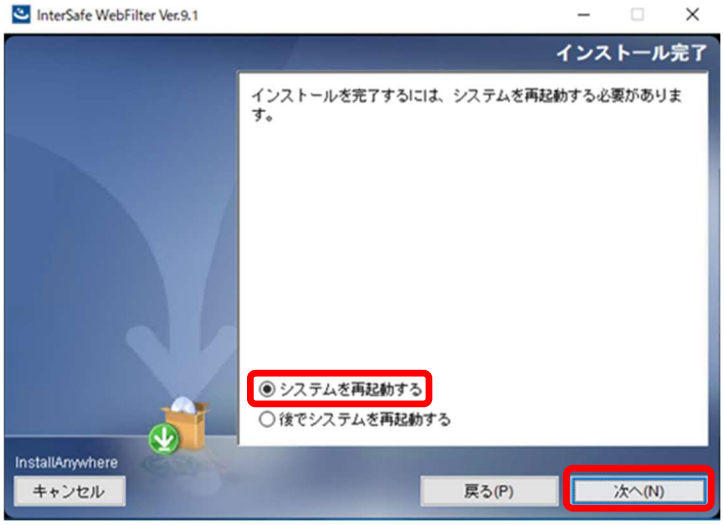
12) OS パラメータの最適化の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 5-13



13) OS パラメータの最適化を行った場合、OS の再起動を要求されますので、再起動を実施します。OS 再起動後は自動で WebFilter のサービスが起動します。

図 5-14



● OS パラメータの最適化を行なわない場合、システムの再起動は行われず、サービスの起動確認(図 4-14 を参照)が行われます。

設定ファイルの復旧

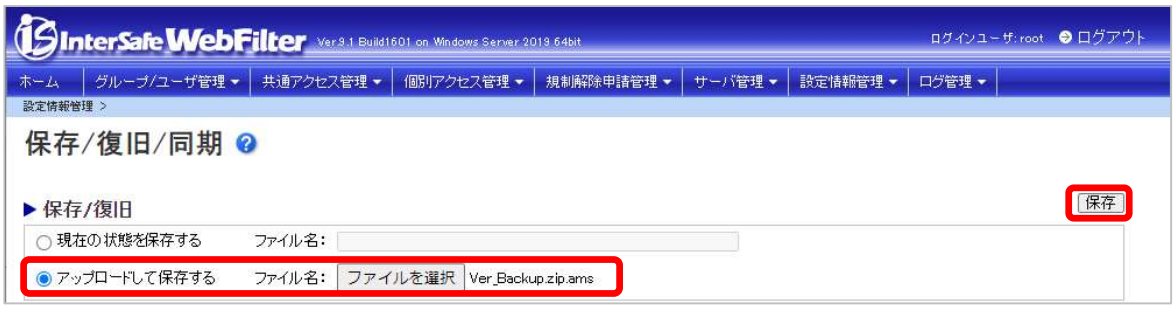
1) 新規サーバの OS（サービス）が起動しましたら、ブラウザを起動し、管理画面にアクセスします。
アクセス URL はデフォルトで 「http://<プライマリサーバの IP アドレス>:2319/」です。

2) ログイン後、[設定情報管理] → [保存/復旧/同期] をクリックします。

図 5-15

3) [▶ 保存/復旧]の「アップロードして保存する」を選択します。[参照]ボタンをクリックし、P.35 の 4) で保存したファイルを選択し、[保存] ボタンをクリックします。

図 5-16



4) 保存確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。

5) 一覧にアップロードしたファイルが表示されますので、3)でアップロードしたファイルを選択し、[復旧] ボタンをクリックします。

図 5-17

6) 復旧確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。

● 3)で保存した設定ファイルにレプリカサーバが登録されている場合、移行後のプライマリサーバとレプリカサーバで疎通が取れる環境で[復旧]を実施すると、レプリカサーバに紐付いているプライマリサーバの IP が変更されます。新プライマリサーバとレプリカサーバで疎通が取れない環境であることをご確認後、[復旧]を実施してください。

7) 復旧処理が完了したメッセージが表示されますので、すべてのサービスを再起動してください。

● サービスの起動 / 停止手順は、P.6「2-2.サービスの起動/停止について」をご参照ください。

注意事項の確認/設定

P.11「2-5.注意事項の確認/設定」を参照して、必要があれば設定を変更します。

URL DB ダウンロード

P.11「2-6.URL DB ダウンロード」を参照して、手動でフル URL DB をダウンロードします。

以上で、バージョンアップ作業は完了です。

6. 障害時のリカバリについて

バージョンアップ中に障害が発生し、旧バージョンにリカバリする手順について説明します。

プライマリサーバのリカバリについて

プライマリサーバのバージョンアップ時に何らかの理由で障害が発生し、旧バージョンへダウングレードする場合は、以下の手順にて実施してください。

■ 旧バージョンのインストーラがある場合

1) インストールされたままの WebFilter があればアンインストールを行います。
2) バックアップしておいた旧バージョンの設定フォルダ(conf フォルダ)を、以前と同じ場所にコピーします。

● WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

3) 旧サーバのインストーラを実行することで、設定ファイルをコンバートしながら、旧サーバのインストールを行います。

■ 旧バージョンが Hotfix など、パッチの場合

1) インストールされたままの WebFilter があればアンインストールを行います。
2) バックアップしておいた旧バージョンの設定フォルダ(conf フォルダ)と同じバージョンになるまで、インストールを行います。
   (例) Ver9.0 Build1101 をインストール → パッチ Ver9.0 SP1 Build1206 を適用 など)
3) 設定フォルダを上書きします。
4) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。
   <InterSafe WebFilter 導入フォルダ>¥bin¥amsdata -reload
5) WebFilter のすべてのサービスを再起動してください。

レプリカサーバのリカバリについて

レプリカサーバは、プライマリサーバリカバリ後、プライマリサーバと同じバージョンに再インストール後、管理画面よりレプリカサーバの再登録を行なってください。

7. Ver9.1 SP3 での変更内容について

Ver9.1 SP3 での変更内容について記載しています。

7-1. 注意事項

バージョンアップ時の注意事項について、以下の弊社 FAQ に詳細を記載した資料が掲載されていますので、ご参照の上別途設定を行なってください。

No.2244「バージョンアップ時の注意点などありますか？」

https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=2244&category=&page=1

- Ver9.1 SP3 にて追加された機能につきましては、FAQNo.2244 に添付の資料、もしくは WebFilter の管理者マニュアルをご参照の上、必要に応じて別途設定を行ってください。

7-2. バージョンアップによる機能追加

Ver9.1 SP2 から Ver9.1 SP3 へのバージョンアップにより追加された機能の概要を一覧にまとめました。

表 7-1

項目	内容
管理画面	Google Chrome、Microsoft Edge(Chromium 版)に対応しました
グループ管理	グループ毎にヘッダ編集設定が可能になりました
例外 URL スケジュール設定	例外 URL 設定を曜日・時間ごとに適用できるようになりました
例外 URL 設定　一括インポート初期値変更	例外 URL 設定の一括処理にて、インポート時の初期値を「置換」→「追加」に変更しました
サーバの呼称	「マスタ/スレーブ」を「プライマリ/レプリカ」に変更しました

Ver9.1 SP1 から Ver9.1 SP2 へのバージョンアップにより追加された機能の概要を一覧にまとめました。

表 7-2

項目		内容
パフォーマンスモニタ機能		パフォーマンスモニタにプロセス統計グラフが追加されました
サーバ管理	サーバ設定	プロセス数の利用率が閾値を超えるとアラートメールを送信できるようになりました（メール通知設定が必須です）
	信頼済み証明書設定	Windows セキュリティアドバイザリ対応として信頼済み証明書が管理画面から登録可能になりました
	LDAP サーバ設定	Windows セキュリティアドバイザリ対応として LDAP サーバとの接続方法にて LDAPS に対応しました

Ver9.1 から Ver9.1 SP1 へのバージョンアップにより追加された機能の概要を一覧にまとめました。

表 7-3

項目	内容
規制画面拡張	規制画面から認証局証明書のダウンロードができるようになりました
	規制画面に規制したサーバ名と規制時間が表示されるようになりました
CLI 拡張	amsaccount -search の追加
	amsurl -add、amsurl -clear の追加

7-3. 設定ファイルの違い

Ver9.1 以降の設定ファイルの違いについて一覧にまとめました。(太字のキーが追加/変更されたバージョンです。)

表 7-4

項目名	Ver9.1 SP3	Ver9.1 SP2	Ver9.1 SP1	Ver9.1	内容
[SYSTEM_UPDATE]					
PLURAL_DOWNLOAD	TRUE	TRUE	**TRUE**	FALSE	DB ダウンロードを一日複数回行うかどうかを設定する。 TRUE: 一日複数回のダウンロードを行う FALSE: 一日 1 回ダウンロードを行う
[SERVICE_OBSERVE]					
PROCESS_CHECK_INTERVAL	60	**60**	–	–	管理サービスがプロセス数の監視を行う時間間隔。 単位（秒）1～100000 秒まで設定可能
PROCESS_WARN_THRESHOLD	80	**80**	–	–	管理サービスがプロセス数の警告を行う閾値。 単位（%）0～99%まで設定可能

8. バージョンアップ時の FAQ

Q1. Ver9.1 SP3 と Ver9.1 SP2 や Ver9.1 以前のバージョンが混在した場合、WebFilter のサービスに影響は出ますか？(WebFilter は全てプライマリサーバ)

混在における影響はプライマリ/レプリカの関係・設定時に発生するため、すべてプライマリ環境であれば特に影響はありません。

Q2. バージョンアップ時サーバがダウンした場合、WebFilter の再インストールは必要ですか？

新規インストール・バージョンアップウィザードが正常に終了しているのであれば、一般的には問題ありませんので再インストールの必要性はございません。ただしサービス起動時にエラーなどにより起動が出来なかった場合、および原因の特定が出来なかった場合、切り分けとして再度インストールをお願いする可能性がございます。（万が一サービスを停止する期間が長くなってしまう場合、バックアップファイルを用い旧バージョンに差し戻すことをお勧めします。）

Q3. プライマリサーバの冗長化はできますか？

できません。

Q4. プライマリサーバ故障時の復旧方法は？バージョンアップが失敗した時のリカバリ方法は？

バージョンアップ前/後、どちらであっても設定ファイルのバックアップがあれば、復旧/リカバリは可能です。復旧/リカバリの手順は以下になります。レプリカサーバはプライマリサーバ復旧/リカバリ後、プライマリサーバと同じバージョンにしてから再度管理画面よりレプリカサーバの登録を行なってください。具体的な手順は P. 42「6. 障害時のリカバリについて」をご参照ください。

Q5. プライマリサーバの故障時、レプリカサーバのみで運用できますか？

フィルタリングサービスに関しては可能です。ただしプライマリサーバが存在しない場合は管理画面を利用した設定変更やユーザ管理などの操作が出来なくなります。

Q6. OS をリプレイスしてバージョンアップしたいのですが、本手順書の 4 と 5 のどちらの手順がいいのでしょうか？

変更する OS の種類によって、どちらかの手順でバージョンアップを行ってください。

・WindowsOS → WindowsOS の場合 → P.18「4.OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順」と P.32「5.異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順」のどちらの方法でもバージョンアップが可能です。

・Windows 以外の OS → WindowsOS の場合 → P.32「5.異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順」の方法でバージョンアップが可能です。

Q7. バージョンアップに失敗するとどうなりますか？

バージョンアップ中何らかの理由でバージョンアップに失敗すると、クリアインストールされ設定は引き継がれません。その場合、C:¥InterSafe¥backup¥save フォルダ以下にバージョンアップ前の conf フォルダがバックアップされていますので、一旦 Ver9.1 SP3 をアンインストール後、再度バージョンアップをお試しください。

9. InterSafe WebFilter サポート窓口について

WebFilter について不明点等ございましたら、下記のサポート窓口までお問い合わせください。

メール　：support@alsi.co.jp

お問い合わせフォーム　：https://alsifaq.dga.jp/form/support_form.html

InterSafeWebFilter Ver9.1 バージョンアップ ユーザーズガイド

2022 年 5 月 第 4 版

作成/発行/企画　アルプスシステムインテグレーション株式会社

〒145-0067　東京都大田区雪谷大塚町 1-7

※記載されている会社名および商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

・本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

・本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複写することを禁じます。

・本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一記載に誤りや不完全な点がありましたらご容赦ください。